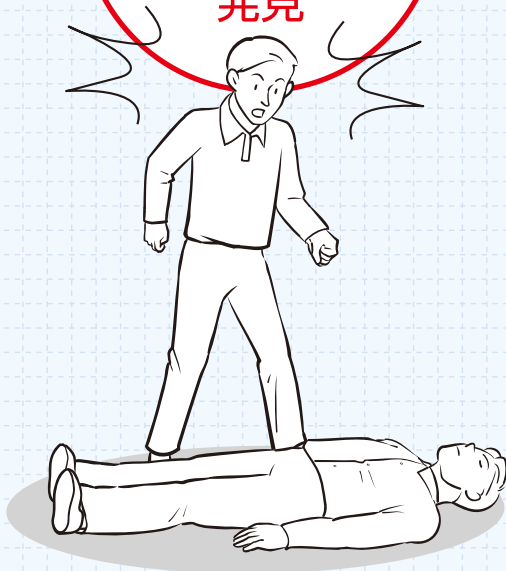


一次救命処置 (BLS) の手順

STEP 1

傷病者
発見

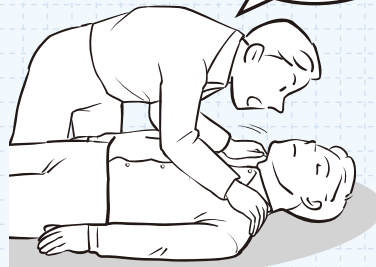


STEP 2

反応の確認と
呼びかけ

「大丈夫ですか?」や「もしもし」などと問いかけながら傷病者の肩をやさしく叩きます。

大丈夫
ですか?



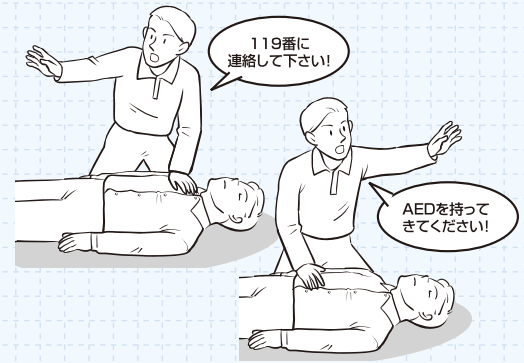
STEP 3

119番通報と
AED手配

傷病者に反応がない場合、「誰かきて!」と大声で人を集め、「あなたは119番に連絡してください」、別の人には「あなたはAEDを持ってきてください」と具体的に指示してください。

119番に
連絡して下さい!

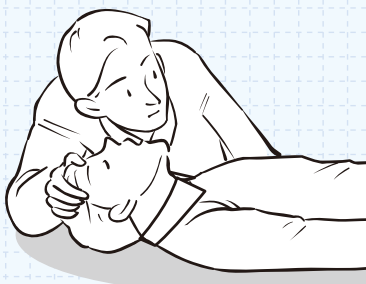
AEDを持って
きてください!



STEP 4

呼吸観察

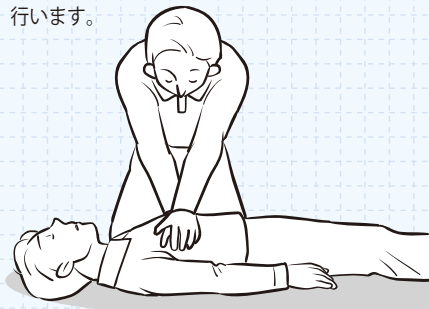
傷病者の胸と腹部の動き(呼吸をするたび上がったり下がったりする)をみて、呼吸観察をします。胸と腹部が動いていなければ、呼吸が止まっていると判断します。



STEP 5

胸骨圧迫
(心臓マッサージ)

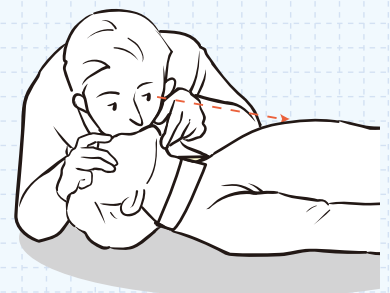
呼吸観察で心停止と判断したら、ただちに胸骨圧迫を開始します。胸の真ん中(左右の真ん中で、かつ、上下の真ん中)を目安に、胸が約5cm沈み込むように強く圧迫します。また、1分間に100回~120回のテンポで可能な限り中断せずに、絶え間なく行います。



STEP 6

気道確保
人工呼吸
(省略可)

胸骨圧迫を30回続けたら、気道確保をして、人工呼吸を2回行います。息は傷病者の胸が上がるのが見てわかる程度の量を約1秒間かけて吹き込みます。

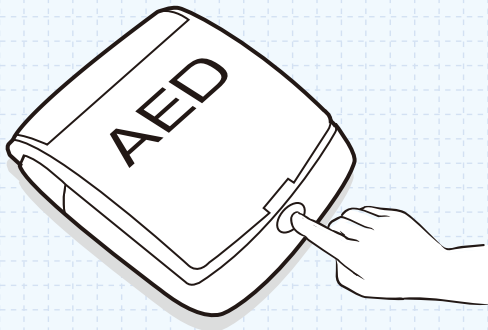


STEP 7

AED到着 <電源ON>

AEDが到着したら電源を入れ音声メッセージに従います。

※救助者が一人だけの場合、AEDを使用するには心肺蘇生を中断せざるを得ません。

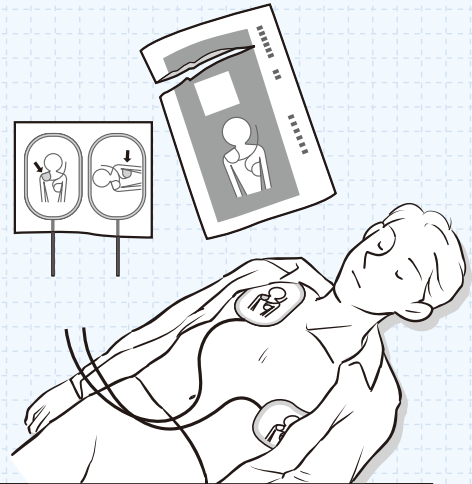


STEP 8

電極パッドを貼る

電極パッドを取り出し、傷病者の胸に貼り付けます。

※救助者が二人以上いる場合は、電極パッドを貼る間も心肺蘇生を続けます。



電極パッドは胸の右上(鎖骨の下で胸骨の右)と左下側(脇の下から5~8cm下、乳頭の斜め下)に貼付するのが標準的です。電極パッドは傷病者の肌をしっかり密着させます。電極パッドと肌の間に空気が入っていると電気がうまく伝わりません。

また、体毛の濃い傷病者に対してはAEDの効果が半減するばかりではなく、火傷の原因にもなります。本来貼り付ける位置に近い場所で胸毛の少ない場所があればそこへ貼り付けます。予備の電極パッドがあれば、予備の電極パッドで素早く胸毛ごと剥がしてから、新しい電極パッドを貼り直します。カミソリがある場合は、胸毛を剃ってから電極パッドを貼り付けます。

金属製のアクセサリは火傷を起こす危険性があります。外せるものは外しましょう。外すのに手間取る場合は、電極パッドからアクセサリをできるだけ避けます。

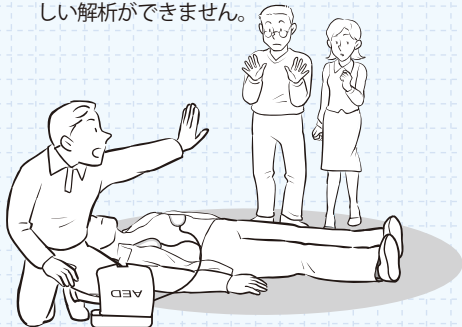
貼り薬(ニトログリセリン、鎮痛剤など)や湿布薬が電極パッドを貼り付ける位置に貼られている場合はまずこれを剥がし、残っている薬剤をふき取ってから電極パッドを貼り付けます。

皮膚の下に心臓ペースメーカーや除細動器が埋め込まれている場合は、胸に硬いこぶのような出っ張りが見えます。電極パッド貼り付け位置にこの出っ張りがある場合、電極パッドは出っ張りを避けて貼り付けてください。

STEP 9

傷病者から離れる

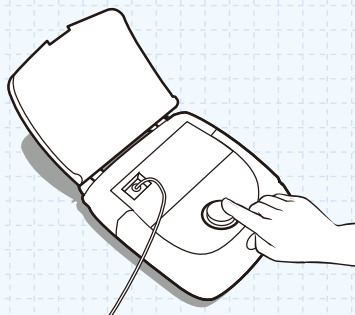
電極パッドが肌をしっかり貼り付けられると、機械が傷病者から離れるよう指示します。電気ショックを与える必要があるかどうかを判断するために、機械が自動的に心電図の解析を始めます。他の人が傷病者に触れていると正しい解析ができません。



STEP 10

ショック

心電図の解析が終わり電気ショックが必要と判断されれば、ショックボタンを押すように機械から指示が出ます。その指示に従ってショックボタンを押してください。この際も必ず他の人は傷病者から離れてください。直接傷病者に触れていると感電する危険があります。



STEP 11

胸骨圧迫 (心臓マッサージ)

電気ショックの後は、すぐに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開します。再開して2分経過したら、機械が傷病者から離れるよう指示を出し、再度心電図の解析を始めます。以後、機械のメッセージに従ってください。

到着した救急隊に引き継ぐまでは、電極パッドを剥がさずAEDの電源も入れたままにしておきます。状況や実施した応急手当、AEDによる除細動を加えた回数などを伝えます。意識が戻ってもAEDの電源や電極パッドは剥がさず救急隊が到着するまで、そのままにしておいて下さい。

